もう一つの実践・国際交流

第11回　海外研修　(台湾)報告

台湾の先進校・3校を視察

永安小學　健康小學　新生小學

全個連会報
特別号

平成１４年
１月２６日
発行責任者
加藤幸次

最先端を行く中国（台湾）の教育

上智大学教授　加藤幸次

立ち遅れる日本

日本では、学校５日制を導入するのに１０年以上もかかり、導入するとなったら、「学力低下」を招くと言った反対の合唱が生ずる。

また、「４０人学級」から、なかなか「３０人学級」にいかない。それに対して、中国（台湾と大陸）は、すばやく５日制を実施した。学級定数も台湾では３５人である。ちなみに韓国では、今年度、「３０人学級」を突然実施した。もたもたしているのは日本だけである。

中国（台湾）では、昨年度から家長委員会（学校評議員制度）の導入を行い、同時に「九年一貫教育課程」をめざし、学校教育改革に突入した。

中国(台湾)の教育課程

注目されるのは、従来の「教科」を廃止し、８つの「領域」に再編したことである。まず、２つの課程、すなわち、「基本課程」と「弾性課程」に分ける。

前者には、「語文（４～８時間)」、「数学（３～４時間)」、「社会（２～４時間)」、「自然と生活技（２～４時間)」、「史訊（情報・０～１時間)」、「芸術と人文（図工と音楽・２～４時間)」、「健康と体育（２～４時間)」「生活（１・２年の社会、自然、に生活技、芸術と人文の合科)」という８つの領域がある。

後者には、「綜合活動」を含んだ「学校裁量の時間」がある。

力を入れている英語の授業

今回の見学では、主に、「語文」の内の英語の授業を見た。語文の領域には、本国語（標準語)、母語（台湾語、客家語、原住民語）などに英語が含まれる。

政府の教育部が基準としているのは、英語は５・６年で２時間（１校時は４０分）であるが、台北市は３年以上とし、見学した３校はすべて１年から英語を行っていた。

小学校への英語導入は２年前からとのことで、不足する英語教師について、教育部は採用のための特別試験をしたという。この採用試験には、約５万人の応募者があり、約３０００人の英語教師が採用されたと言う。

応募の基礎資格がなんと、ＴＯＥＦＬ６００点以上とのことで、見学した英語の授業は、すべて若い女性教師で指導法も音楽やコンピュータを巧みに活用していた。彼女らの発音は完璧に近い米語であった。

子供たちはどの学年も３つの組（能力別グループ）で行われていた。例えば３年の上位グループの英語は日本の中学２年以上の内容のものであった。教科書はイギリスあるいは、アメリカのテキストであった。　（次頁へ続く）

大幅な教育課程の大綱化

「九年一貫課程」の教育課程の実施にあたって大幅な大綱化がなされ、各学校が特色ある教育課程を組むことが可能になった。すでに述べたように、基本課程に加えて弾性課程（１０～１５％）が設定された。訪問した永安小学校では、「総合活動」をすべての学年で週２時間取り、「永安・明水タイム」にも、３年以上１時間取っている。

基本課程の新しい領域（教科）のＳＷＯＴＳ分析構成の仕方を見ると、領域目標に対して、Ｓ（優勢－長所）、Ｗ（劣性－短所）、Ｏ（機点－利点）、Ｔ（威脅点－問題点）、Ｓ（行動略－改善策）という観点から学校の実態を分析している。

次に、学校のもつ資源および社区資源（地域のもつ諸条件、ローカルリソーセス）を勘案して、学校独自の教育課程を作成するというプロセスを採っている。

学習と子供の負担

率直な感想としては、漢字自体がきわめて子供たちにとって難しい上に、英語の重圧を受けているように見えた２年生の教室の板書を見ると日本の中学２年相当の漢字が書かれている。どう見ても、子供たちが自分で読めていない。教師が書き、声を出して読んでいる。台湾の学校が、教師がリードしながら、常にクラス全員が「斉唱」している場面が多い。英語の授業もそうである。

書く、あるいは漢字で表現することが時間をかけて発達するものとすると、とても調べ学習やテーマ学習は導入が難しいのではないかと感じた。

同時に、「落ちこぼれ」ていく子供たちも多いのではないかと感じ、親の負担も大きいのではと考えた。

今回は確かめなかったが、教師は免税されている。その上、塾のように自分の家に集めて教えることもできる（有償）とも聞いた。学校でも家でも子供のへ学習への圧力はきわめて大なるものがあると感じた。

ともかく、ひらがなやカタカナのない国、漢字国家である。（ルビはある）。私たちの目から見ると、漢字や英語という言葉の習得には、大きなエネルギーがさかれている。子供にとって受け身な学習が多いと感じた。

したがって、主体性・自主性の育成はきわめて難しいようにも感じた。受動的な国民の形成になっていなければ良いのだが、漢字国家の問題点かも知れないと感じ帰国した。

教科書はイギリス「スマイル」を使う
子供たちは実に楽しそうである

◇台湾の英語教育の基本理念

グローバル時代の到来に伴い、国際間の政治経済・文化の往来が頻繁になり、英語の重要性が日に日に顕著になってきている。情報伝達、科学技術、商工業、ひいては高等教育から、英語は国際交流の最も重要なコミュニケーションとなった。また、英語学習を通して、児童・生徒は異文化を体験することが可能になり、多元文化に対する認識及び尊重心を増進させることが可能となった。

それゆえに多くの国で英語教育を重視するようになってきている。政府が推進センターを建立して以来、国民は英語コミュニケーション能力を高めることが極めて切実な問題であると考え、社会が期待を寄せる中、英語教育を小学校の段階まで繰り上げて実施することとなった。

国民小中学校の英語教育課程は、国民の英語コミニュケーションの基礎を固めること、そして国際感覚を養うことを目的としている。

その目指すところは、国民の国際事務能力の増進また国家間競争力の増強にある。

国民小中学校の英語教育課程では、児童・生徒の興味をわかせ、基本コミニュケーション能力育成するために、自然で楽しい言葉学習環境を作り上げること。授業は、気軽で活発な触れ合い活動であること。教材内容及び活動のデザインは、生活化、実用化、つまり多様化した形態が大切であること。

コミニュケーション能力の育成とは、即ち多様な教材と活動（練習）を通して児童・生徒に多方面の言語と接触させ、それを実際に活用させて英語学習を行うことである。教師が一方的に文法構造等の語学知識を教え込むということでは決してない。児童・生徒の学習モチベーションを維持させ、学習の負担を増やさないために、教材の量や難易度を丁度よくすることで、児童生徒の学習興味と吸収能力は高まる。　　**（台北在住、等々力太偉・意訳）**

九十學年度六年級開始實施之英語課程

(一)基本理念

隨著地球村時代的來臨，國際間政治、經濟、文化往來頻益突顯。從資訊、科技、工商業、乃至高等教育，英語已成為工具。而透過英語學習，學生可體驗不同的文化，增進其對重。因此，重視英語教育已成為多數現代國家的教育趨勢。自中心的建立以來，國人深感英語溝通能力的提昇甚為迫切，在語教學提前至國小階段實施。國民中小學英語課程設計宗旨為礎，涵泳國際觀，以期未來能增進國人對國際事務之處理能力，

國民中小學英語課程強調營造自然、愉快的語言學習環境興趣和基本溝通能力。上課宜採輕鬆、活潑之互動教學模式。宜生活化、實用化及趣味化；體裁多樣化。溝通能力之培養乃

2年生の英語、日本の中学生レベルである

◇新生小学校

「この小学校は私の子供のようなものです。」校長先生の言葉が印象的であった。校舎の設計から建築現場に至るまで学校創設と共に、見守り続け、まさに自分の子供に対するような深い愛情と細やかな心遣いが感じられた。

日本同様、台湾の小学校でも教員に対する世間の目は年々厳しくなっているそうである。しかし、豊富な掲示物や意欲溢れる指導ぶりを見る限り、この新生小学校の先生方は児童・保護者からまだまだ尊敬され続けていくだろうと感じられた。

◇健康小学校

“英語教育”今回訪問した健康小学校がもっとも力を入れている教科である。

この小学校では、

1．コミニュケーション能力（聴く、話す、読む、書く、語彙力）
2．英語に関する関心・意欲・態度
3．異文化理解

の３つの能力を育てることを目標にしている。また、学習を行うにあたっては、学期ごとの口頭試験によって、話す、聴くことといった能力を測り、習熟度別にクラス分け編成を行っている。日本で時折みられるＡＬＴ任せの英語教育を脱し、早急に「何をどこまで身につけるか」という内容づくりが必要であると感じた。

◇永安小学校

永安小学校では、日本の総合的学習の時間を参考にして

（明水時間）個人が自主的にテーマを選ぶ個人追求の調べ活動あるいは作品制作活動（作品には必ず作成方法についてのレポートを添える）、（永安時間）学年集団やグループ集団による体験学習（例、過去に起こった水害について調べ、劇の形で発表する）の二つを週一時間づつ確保し学習している。

本家の日本では、総合的な学習の時間が始まって以来、未だに一部の学校を除いて、右往左往をしている学校も時折見られる。しかし、ここ永安小学校では学習環境作り、学習材作りと新しい教育に向かって職員一丸となって、突き進んで行くパワーを感じた。

（千葉・湯浅）

充実する教育内容・教育施設

═ 若さと情熱を感じる台湾の教育

新生小学校正門
全員で記念写真

◇新生國民小学校を訪問して

オープンスクールとして開校したこの学校の素晴らしい施設・設備の、それに校舎のあちこちに広がるゆったりとした空間にはまず驚かされた。

また、劉美娥校長の学校経営にかける情熱にも圧倒された。学校建設は校長にまかされる仕事であること、そして、職員の人事も校長にあると聞かされるとさもありなんと思う一方で、どれほどの努力や苦労があったのだろうとも思った。これまでの日本の校舎建築は、とりあえず大至急校舎を建てて、職員を配置してという

参加させていただいた３校は、いずれも施設設備・内容・学校組織として先進的な者で、教育への情熱が伝わってきました。内容の充実ということでこれから、もっともっと発展するでしょう。ぜひ、３年後・５年後にまた参観できたらと思います。　　**（東京・小林）**

形がほとんどと言っていい中で、約１０年の歳月をかけて、しっかりとした教育理念を持ち、校長を決め、開校のための研究や諸準備が進められきた台湾（台北市）の教育にかける意気込みは本当にすばらしい。

劉校長自らが名実ともに、学校のリーダーとして活躍される。学校は子供たちも輝き、職員もやる気に満ち、保護者も安心して、こどもをまかせられるだろう。

劉校長のエネルギーを少しいただき、明日からの自分の活力にしていきたいと思った。

（滋賀・帖佐）

◇新生小学校

校長先生の教育にかける情熱を強く感じた。子供たちの使う机や椅子も特別に考案されたものと伺い、一つ一つの学習環境に対して、校長先生の教育へのこだわりには感心させられた。

◇健康小学校

ＰＴＡ会長をはじめとする保護者の方の協力・支援する体制ができていた。ＰＴＡ会長の「お金は出すが、教育内容には口を出さない」の言葉には素晴らしいと思った。同時に、学校側から保護者．地域の方に一部の教育内容には、参画してもらうことも大切だと感じた。

◇永安小学校

学校建築、施設設備の充実に驚いた。英語の授業では、担当の先生の指導の素晴らしさに感動してしまい、思わず本屋でテキストを購入してしまった。１０００人も入るランチルームでの給食は美味しかった。　　**（大阪・赤江）**

◇新生小学校

立派な校舎に驚き、維持管理にも人とお金がかけられてる様子を羨ましく思いました。

２年生の英語の授業は、カードとテープを使用して、ゲーム感覚で見ていても楽しいものでした。

◇健康小学校

補導室があり、落ち着かない子への個別対応ができるシステムや６年生の英語のパワーポイントを用いて、テンポの速いのが印象的でした。ＰＴＡ会長のご夫妻の通訳に感謝します。

◇永安小学校

前夜の歓迎会には驚きました。朝、校舎を見て、また、その大きさとドームに驚きました。図工室やプラネタリウムを見た頃には、もう、目が丸くなったままでした。許校長先生のカリキュラムや新しい学校を創る意欲的な姿に、感銘を受けました。　　**（東京・鈴木）**

◇新生小学校

開校の準備に４年。教員採用は公募で校長自らが決定。教員平均年齢３４歳。トイレの扉・タイルの一枚に至るまで自らが決めたという。学校はいわば「私の子供」と胸を張る校長の姿に敬服。校長の権限の大きさを羨ましく思う。

学ぶことの多い研修会に参加させていただいたことに感謝する。　（東京・三石）

◇市の行政力と校長の情熱

３校の訪問で、市と行政力と校長の情熱とに圧倒されました。未来を志向して新しい教育を創り出すエネルギーの源がここにありますね。

熱烈光臨と言われる実態にも触れ、訪問する友人を迎えて下さる温かさにびっくりさせられました。

地域における父母の協力体制の組織化には学ばされました。すぐに実践できそうです。英語教育にかける意欲もすばらしいですが種々課題もあるのだろうと感じます（東京・万代）

◇新生小学校

オープン・スクールの理想郷がここにあった。空間がぜいたくにとってある。校長先生の情熱的な教育への思いが、校舎の端々からも伺える

◇健康小学校

通訳は、ＰＴＡ会長ご夫妻。協力体制バッチリである。新生小学校の英語の授業もすばらしいかったが、健康小学校では習熟度別にクラス編成し、英語の授業をしていた。若い先生がテンポよく英語で進めているのを参観して日本はどうなるのか心配になった。

◇永安小学校

児童数３０００人の規模のオープン・スクールである。子供たちがハワイの庭と名付けた中庭に立つと、緑豊かで南国のホテルにいるような気分になる。休み時間には、英語、日本語、台湾語のコンテストをやっていた。英語のみでないところに開放教育の意図が伝わってくる。３校ともに、先生方の若々しいエネルギー（特に英語の力量がすばらしい）と子供たちのパワフルな姿が印象的である。

（東京・等々力）

◇新生小学校

空間の豊かさに驚きました。校舎の中に漂う新鮮な光、風、香を日本につれて帰りたいです。

◇健康小学校

英語表示が目にとび込んで来ました。自然のうちに漢字のルビのように覚えていくでしょうか。

◇永安小学校

大きなドームにまずびっくりしました。それに緑の多さ、生き生きと成長している植物が子供たちを優しく見守ってくれているように思えました。

図書館を自分の書斎のように使いこなしている子供たちも印象的でした。ボランティアのＰＴＡの方々もはつらつと働いていて、子供への愛情を感じました。調度品等も工夫されていて、大変参考になりました。　（東京・八木原）

◇若い目で

台湾での英語教育が進んでいることに、とても感心しました。個別教育を取り入れていることも良いなと思いましたが、英語教育の日本とのレベルの違いには大変驚きました。

私も、日本で、英語教育を受けてきましたが、まだ実践的ではなく日常生活とはかけ離れているように思います。低学年からの指導が最も必要になって来るんだなと思いました。

ＰＴＡの役割について、教育に対して意見はせず教師に任せていて、お金を必要と判断すれば寄付金が集まる状況で、すごいと思いました。教育に関して口出ししないというのは、やはり子供が受けている教育に対して、親が不満を持っていないという事のにつながるのではないかと感じます。学校に対する信頼感が強いなあと思いました。

今回の台湾の研修に参加して、フランスとは違った（２０００年フランス研修に参加）雰囲気の中で、学校も全く雰囲気が違い、自分自身の考え方の幅が、またさらに広がったなあと思います。日本人としての考え方にとらわれず、広い視野で物事が判断できる感性を身につけていきたいと思います。

（帖佐　幸・学生）

国家プロジェクトとしての教育改革

東　京・和井田 清司

今回の研修旅行は、私には初めての台湾だった。わずか 5 日間、しかも台北のみの見学だったが、多くの人と会い、豊かな自然に触れ、心地よい刺激に満ちた旅行となった。

参観した 3 つの市立小学校は、施設の豪華さが際だっていた。日本で探すとすれ ば、立派な校舎を喧伝する私立大学の建物に匹敵するだろう。例えば、永安国民小学校は、地上 5 階、地下 1 階の校舎がオープンスペースの方式で建設されたものである。地下には 1000 人を一度に収容できる食堂、屋上にはプラネタリウム、中庭を覆うドーム型の屋根をそなえ全体として重厚長大で荘厳な城のような雰囲気であった。

これらの学校では、ハード面のみでなく、学校ごとにカリキュラムを開発し、若く能力の高い教師をあつめて工夫した授業が展開されていた。ちなみに、健康国民小学校でいただいた「主題教学」という冊子は、ハードカバーで製本された 623 頁に及ぶ研究紀要であり、学年ごとに教育計画・教材・学習活動・評価方法・生徒作品・学習状況の写真等が並んでいる。

こうした資料から、国の教育課程を参照しながら、学校単位でカリキュラムを工夫していることがわかる。特に印象に残った点は、見学したすべての小学校で、情報教育と英語教育に力を注いでいたことである。英語教育は、一般に習熟度別クラス編成が導入されていた。

健康小学校の場合、各クラスを基礎班・普通班・進階班の 3 つにわけ、レベルにあわせた授業を展開していた。学習計画表によれば、6 年の基礎班は、1 年の進階班と同レベルの学習内容である。徹底した能力別授業と言える。参観した英語の授業は視聴覚教材やパソコンを活用し、楽しくリズミカルに進められていた。

小学校の英語教育の展開のため、台湾全体で 3000 人の教師を採用した。その際、5 万人の応募者が殺到し、TOEFL600 点以上の英語力と教育的な力量を併せ持つ人が合格し、教壇に立つことになったという。英語教師の力量は推して計るべしであろう。台湾の一般校を知らないので比較できないが、私達の見学した学校が、突出した施設・設備を持つことは間違いない。これらの学校創設にあたり,市当局は創設の数年前から校長を任命し、その校長は、教員の採用、カリキュラムの決定、築資材と建築のすべてに係わっている。さらに、家長会（PTA）のサポートがしっかりと校長を支えている。

これが小学校？ 立派な講堂　体育館は別にある

これらの学校の存在に触れて、重点学校を突破口にして国家プロジェクトとしての教育改革を推進しようとする台湾当局の意欲を感じた。

人口 2000 万の台湾が、12 億人を超える中国にどう対峙していくのか。

こうした重たい問いを背にしながら現実の台湾がある。重厚長大で荘厳な小学校を見ながら、その裏側に中国大陸の幻影をほんの少しばかり感じるとしたら穿ちすぎであろうか。

茶畑見学、茶摘み体験　そして茶芸を学ぶ

今回の研修で、私たちは、台湾の先生方のご好意で、台湾で有名な文山包種茶の産地を訪問することができた。そこには、台北県農会総幹事・林錦洪（台湾の農業界の要人）氏が、私たちを待っていてくださり、そこで、私たちは国賓なみの接待を受けた。

茶畑で、茶摘みをする。皆初体験で大喜び！

文山農場にて、ウーロン茶の見学

茶摘みのかごを腰に着け、すげ笠をかぶり、茶畑へ。１２月であるが、さすが台湾、新芽、新葉が出ている。「一芯二葉」をつみ取る。次にウーロン茶の製造工場の見学。

そして、お茶の師匠に茶芸の伝授。沸騰したお湯を注ぎ、３０秒程で茶器に注ぐ。まず器を両手で持ち上げて、３回香りを嗅ぐ。その時、器を動かし、決して頭を動かしてはいけない。３回で飲み干す。飲み干した器の香りを嗅ぐ。

台湾では、「茶は芸術である」とのことで、「茶芸」である。（日本は茶道）レストランでは、茶料理をお腹いっぱいごちそうになる。（中華料理であるが、すべてお茶が入っている。）売店ではウーロン茶はもちろん、茶菓子、茶梅、茶飴、茶酒、茶油、茶薬など（静岡では売っていないものばかり）

台湾の先生のご厚意で、茶摘みをさせていただいたり、一流の茶芸の師匠さんに、直接伝授していただいた。

しかし、このすばらしい接待を受けられたのも、元はと言えば、加藤先生と一緒の研修ツアーでなければ実現しないもの。

加藤先生のこれまでの台湾教育の貢献度の高さを再認識。謝々！

（東京・川島）

全個連の海外研修について

海外の学校事情に詳しい加藤幸次先生の紹介及び引率で、世界各地の学校を訪問している。これまでに、アメリカ、イギリス、ドイツ、オーストラリア、フランス、韓国などの学校を訪問し、今回の台湾が１１回目になる。

世界の学校に学ぶ有意義な研修である。また、現地の先生方とも親しく交流でき、楽しい研修旅行でもある。次回は、中国の教育改革の見聞する予定。（乞うご期待！）

（研修担当・中澤）